

### 第三者評価結果

#### A-1 保育内容

##### A-1-(1) 保育課程の編成

第三者評価結果

【A1】 A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している

a

・全体的な計画の作成については、本部主導で行い各本部会議（園長会、主任会、栄養士会、看護師会）において理念や方針、目標に基づいた意見を抽出し作成されている。その後各地域性の違い、状況を踏まえて各園で検討の上、完成されている。  
 ・園においては、職員全体で周知しグループに分かれて話し合いの機会を持ち、子どもの姿、地域の特性などを取り入れ作成につなげている。その後、各担当者が年間計画、月案、週案、個別指導計画、行事計画の作成を行っている。各計画での週、月、年間の評価が集約され、年度末の全体的な計画の評価となり、また保育園全体の自己評価へと繋げるように取り組んでいる。

##### A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開

【A2】 A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している

a

・室内の環境は「保育ガイド」により季節に適切な温度と湿度が明記され実践されている。各保育室は採光もよく明るく、柵があるため安全に窓を開け定期的な換気も行っている。  
 ・園舎内は常にアルコールや次亜塩素酸水での消毒をされ清潔に保たれており、またコロナ禍により、一層の消毒を実施している。玩具の消毒は午睡中や時間のある時に看護師、主任を中心に行い衛生管理に努めている。安全チェック表に基づき、クラス担任が保育室を確認し園全体は主任が確認している。  
 ・各保育室は檜の木材を使用し木のぬくもりを感じられる環境であり、年齢に応じて子どもの動線を意識した家具の配置により安全に過ごせるよう工夫されている。室内の設定は年齢や発達に応じて見直しを行い、食事や睡眠のためのスペース、遊びのコーナーづくりなどにより子どもが心地よく過ごせる生活空間が確保されている。ホールでは雨の日の運動遊び、季節の行事集会や生活発表会も実施できる広さであり、スクリーンも設置によりオンラインの催し物も実施している。  
 ・手洗い場やトイレは明るく清潔に保たれ、利用しやすい設備となっている。

【A3】 A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている

第三者評価結果

a

・入園時に提出された書類は個別ファイルに児童票としてまとめられ、面談記録と健康記録はそれぞれファイルされ、必要に応じて確認可能としている。保育に必要な子どもの情報は、個別ファイルで把握しているほか、毎日の昼ミーティングにより受け入れからの子どもの様子や、健康状態、ケガなどの申し送りを行い、議事録でも確認できるようにしている。また、登降園表によって体温や健康状態、保護者からの伝言をなどの伝達事項を把握できるようにしている。  
 ・年齢に応じて子どもの分かりやすい表現や言葉遣いに配慮し、否定的な言葉、大きな声を出さないように日々気を付けながら保育にあたっている。子どもの気持ちに寄り添い、小さなことでも褒めて意欲につながるように努めている。  
 ・子どもが主体的に動けるよう肯定的な言葉で援助や言葉掛けができるよう内部研修を行いリフレーミングについて全職員で意識を高めて実践している。

【A4】 A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている

a

・子ども一人ひとりの成長と発達を見極めながら、着替え、片付け、食事、排せつなどの基本的な生活習慣が身につくように援助している。入園時より個人マークでロッカーなどに示し、乳児はマークで自分の場所や持ち物などがわかるように工夫している。0歳、1歳児は保育士が持ち物を管理しているが、2歳児からは自分で出し入れできるようなロッカーの仕様になり、子どもが自分でやってみようという気持ちを尊重し、楽しく取り組めるように援助している。  
 ・幼児クラスでは、玩具の片付けや身支度などできるようになり、さらに持ち物やロッカーの整頓もできるように、ロッカー内を絵で描いて整理の仕方を伝えている。  
 ・年齢に応じて午睡時間を設けているが、子どもの健康状態などにも配慮し必要な場合には休息できるようにしている。また時間前に目覚めてしまった場合には、静かに過ごし体を休めることができるように伝えている。  
 ・季節や発達段階に応じて、保健指導や栄養士からの食育を保育の中に取り入れ、子ども達へ生活習慣の大切さを専門的な立場からクイズや手作り教材などの視覚的な指導を通して理解が深まるように取り組んでいる。

【A5】	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している	a
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育室内の絵本、玩具などは成長や季節などにも応じて見直しを行い、子どもの興味関心に対応できるように工夫している。発達に合わせて子どもの興味に応じた手作り玩具も準備し、幼児クラスでは職員と一緒に作ることも取り組んでいる。</li> <li>・近隣には広場や動物公園があり、日常的に色々な動物を観察したり触れ合うことができるなど恵まれた環境にある。園庭はクラスごとに使用し、乳児クラスはウッドデッキで水遊びなども楽しんでいる。</li> <li>・リズム遊び、ダンス、体操を取り入れたり、カスタネット、スズ、ピアノなどの楽器遊び、造形では廃材遊び、行事のお絵描き、季節の制作、お正月遊びなど、子どもが様々な表現活動を体験できるように取り組んでいる。作品は写真をとってブログに掲載し、現在は行政指導により掲示ではなく持ち帰りにしている。</li> <li>・近隣の高齢者施設への交流が頻繁に実施され、利用者の方やスタッフの方と顔見知りになっているが、コロナ禍での交流では戸外と室内での大きなガラス窓越しの交流などの工夫を行っている。</li> <li>・園の前で育てている野菜や近隣の公園での活動で自然物に触れる機会は多く、それを味わったり制作してみたり飼育してみたりと身近なものに関わることを大切にしている。</li> </ul>		
		第三者評価結果
【A6】	A-1-(2)-⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している	a
<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生的で安全な環境の中で、一人ひとりのリズムに合わせて睡眠・食欲、遊びを満ちし安定して過ごせるように、0歳児保育では、優先して職員を一人多く配置することで、より応答的なかかわりが増えゆったりと安心を与えることに配慮をしている。</li> <li>・保育室は、子どもの発達の段階に応じて家具の配置に工夫をし、ハイハイやつかまり立ちの子が多い場合には家具につかまれるような配置にしたり、歩行できるようになれば部屋を広く使えるように配置を変えたりと環境を整備することで遊びと活動できるように取り組んでいる。色々なことに興味関心が持てるように子どもの目線に遊具などを配置し、好きな遊びを見つけて楽しめるようにしたり、ふれあい遊び、リズム遊び、絵本などを通して同じ言葉を繰り返し伝え言葉やリズムにも興味を持てるようにしている。</li> <li>・慣れない環境で不安やストレスを感じることをないように、家庭との連携を密にするよう努めており、連絡帳以外にも送迎時の会話から家庭での様子を細かく聞き取るようにしている。</li> </ul>		
【A7】	A-1-(2)-⑥ 1歳以上3歳児未満の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している	a
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中で色々なことに興味を持つようになり、自分でやってみようとする気持ちが芽生える時期であるため、探索活動を十分に楽しむことができるように室内の安全に配慮し、玩具は自由に取り出せるように配置している。友だちへの興味、関りも多くなるが、気持ちを伝えることは難しいため、保育士が仲立ちし足りない部分を補足できるようにしている。</li> <li>・園庭遊びや広場へ散歩に出かける時間を取り入れ、外気に触れ自然に親しむとができるようにしている。散歩では保育士が見本となり地域の人に挨拶をして、子どもに伝えている。</li> <li>・看護師や栄養士など保育士以外の大人との関わりや、地域の施設の高齢者の方やスタッフの方と挨拶をかわすなど触れ合う機会を多く持つことができている。</li> <li>・乳児では、食事、睡眠、トイレトレーニングなど生活習慣について子どもの発達に応じて伝えはじめており、家庭と連続性のある保育ができるように、日頃より連絡帳や送迎時に子どもの状況を共有できるように努めている。年齢に応じた成長や発達については懇談会やクラスだよりでも伝え、保護者の理解が得られるように取り組んでいる。</li> </ul>		
【A8】	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している	a
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な計画にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえ各クラスで保育計画を立て実践につなげている。</li> <li>・幼児クラスでは、子どもが自主的に活動できるように、「やりたい」という気持ちや声を逃さないよう心がけている。また、動きも活発であるため、ケガにつながらないように日頃より運動遊びを多く取り入れている。鉄棒、跳び箱、マット、ボール遊びなどを通して色々な遊びを知ること、身体の使い方を知ることで活動が広がるように取り組んでいる。園庭以外にもホール、室内の設定を広くするなどの工夫により雨の日でも活発に体を動かして遊べるように工夫している。</li> <li>・行事では、子どもの意見を取り入れるようにしており、話し合い協力して取り組めるようにな行事につなげ、子ども達の達成感や自信に繋がるように援助している。</li> <li>・今年度の運動会、発表会については消毒と密対策を徹底し、保護者は運動会には1名参加、発表会には2名参加として実施に取り組んでいる。運動会は年長児のみ園庭にて実施、生活発表会については幼児クラスのみ入れ替え制で実施し、子ども達の取り組みを発表できる機会を設けている。</li> </ul>		

		第三者評価結果
【A9】	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している	a
<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内はバリアフリーであり段差が無く、エレベーターも完備され2階への移動も容易に行える環境である。戸外から園までのアプローチにも緩やかなスロープが設置されている。</li> <li>・障害のある子どもの保育では、個別の月案を立案し、配慮事項について職員間で共有しクラスで他の子どもたちと楽しく過ごせるようにしている。実践において個別の配慮が必要な時には職員が1人配置されるようにしている。</li> <li>・本部の臨床心理士によって月に1回の巡回相談ができる体制になっており、専門的なアドバイスを受け、職員間で共有し保育にいかせるようにしている。コロナ禍においても必要に応じて相談は可能である。</li> <li>・クラスにおいては統合保育をねらい、お互いにとって実りのある取り組みとなるようにしている。</li> <li>・職員は研修に参加して知識や情報を得られるようにしており、会議で共有したりフォーマットを回覧するなどで周知に努めている。</li> </ul>		
【A10】	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している	a
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが落ち着いて過ごせるように、できるだけ乳児クラスと幼児クラスはそれぞれで過ごしており、人数が少なくなると17時45分を目安にホールに集まっている。18時になると補食を提供し、長時間の保育によって空腹にならないように配慮している。</li> <li>・延長保育時間では異年齢での合同保育となるため、安全に配慮し一緒に遊べるような玩具や絵本を提供し、子どもが楽しく過ごせるように工夫している。人数も少なくなるため、寂しさを感じないように1対1での会話や関りができるように努めている。</li> <li>・日中の子どもの様子は各担任から担当保育士に引継ぎ、口頭、降園表、遅番日誌を使用して、保護者に伝達できるように取り組んでいる。</li> </ul>		
【A11】	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している	b
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な計画や年長児の計画に小学校との連携について記載されており、それに基づいて保育の中で実践されている。</li> <li>・行政主催の幼保小連携会議への参加により必要な情報を得る機会があるほか、合同での研修会への参加から小学校生活で必要となる事項について園児に還元すると同時に保護者の方へも伝えるように取り組んでいる。また、年長児が近隣小学校を訪問する機会などもあるが、コロナ禍において今年度は就学に向けた様々な取り組みが中止となっている。</li> <li>・年長児クラスは小学校まで散歩に出かけ、道のりを確認したりマップの制作を行い、小学校での生活について話し合う時間を設けるなど、就学にむけて見通しを持ち楽しみにできるように取り組んでいる。また、椅子の座り方、雑巾がけ、時計や数字、ひらがなの練習など小学校で必要となる様々な活動についても生活に取り入れるようにしている。</li> <li>・クラス担任は保育所児童要録を作成し園長が確認の上、年度末に小学校へ提出している。</li> </ul>		

### A-1-(3) 健康管理

		第三者評価結果
【A12】	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている	a
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本社の保健ガイド、行政の健康管理マニュアルに基づき、看護師の主導により子どもの健康管理に努めている。</li> <li>・年間保健計画を立案し各年齢が理解できるよう配慮のもと健康教育などを実践しており、今年度は手洗いや消毒の徹底を行い感染症拡大防止にむけて取り組んでいる。健康指導の回数は少なくなっているが、幼児クラスを中心に正しい手洗いの仕方、鼻のかみ方などを伝えており、保健指導を行った場合は、懇談会や保健日より保護者に伝えている。</li> <li>・乳児クラスを中心に子どもの睡眠や食事など健康チェックを行い保健日誌に記録している。再登園の際には必ず前日からの経過を保護者にヒヤリングできるよう伝達し実践に努めている。</li> <li>・子どもの体調の変化やケガなどについては、看護師、主任保育士、園長への報告が徹底されており保護者に必ず伝達できるようにしている。伝達がなされなかった場合には降園後に電話連絡をし、当日中に伝達が行われるよう努めている。また、急を要する場合には保護者から提出されている緊急連絡先に連絡し早急な対応に努めている。</li> <li>・職員にむけて園内研修を実施しており、AED使用法、嘔吐処理、アレルギー対応、アレルギー児食事対応などの確認を行っている。保護者に向けては、ほけんだよりで感染症や健康教育について、SIDS予防についてなど必要な情報提供を行っている。</li> </ul>		

【A13】	A-1-(3)-②	健康診断・歯科検診の結果を保育に反映している	a
<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な健康診断、身体測定により子どもの健康管理に努めており結果は記録して保護者に伝え共有できるようにしている。健康診断の予定を保護者に知らせ、園医への相談などがあれば事前に伝えてもらうようにしている。健診後は看護師から園長、主任に報告があり、昼礼で職員に伝えられ共有されている。</li> <li>・幼児クラスを中心に、看護師から健診や歯科検診についてわかりやすく子どもたちに伝えるようにしている。身体のこと、排便についてなどもわかりやく伝え、子どもが自分の身体や健康に興味をもち、病気や感染症などを予防できるように取り組んでいる。</li> </ul>			
【A14】	A-1-(3)-③	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている	a
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギー対応ガイドラインに基づき、アレルギー疾患がある場合は子どもの状況に応じて除去食などの対応を行っている。アレルギー食については毎月の給食会議で看護師作成による一覧表での確認を行い、配膳方法などについては研修で確認し周知に努めている。</li> <li>・食事は専用のトレーと食器を使用し、必ず職員が側につき個別の机で食事をとるようにしている。2歳児クラス頃よりは疑問に感じる子どもも多くなるため、看護師よりアレルギーに対する健康教育を行い、なぜ給食に相違があるのかも含めて子ども達へ知らせるようにしている。その様子を保健だよりや掲示物にて保護者にも伝えている。</li> <li>・アレルギーや慢性疾患については、看護師が中心となり保護者と連携し、家庭での様子と園での様子を共有し共通理解のもとで生活にいかせるように取り組んでいる。</li> </ul>			

#### A-1-(4) 食事

第三者評価結果

【A15】	A-1-(4)-①	食事を楽しむことができるよう工夫している	a
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢に合わせた食材と形態と量を提供し、一人ひとりの食欲を柱に子ども達意思を認めながら無理強いせず食べられるよう援助している。幼児クラスでは当番活動で配膳を、4歳児5歳児においてはご飯の盛り付けや汁椀の盛り付けなども行っている。</li> <li>・年間食育計画に基づき、栄養士を中心に年齢に応じた食育活動を実施している。今年度はコロナ禍にあり、クッキング活動に制限が設けられていたが、野菜など食材を見せる機会を多く取り入れるなどの工夫を行っている。レタス、白菜を見せて違いを知ることや、さんまの解体も行い、食材に触れることで食を身近に感じたり、命の大切さに気づくことができるように取り組んでいる。</li> <li>・食べ物の好き嫌いへの対応では、事前に食材を見せて触れる機会をもつことで親しみを感じることができ、食べてみようと思意欲につながっている姿も見られている。</li> <li>・離乳食、幼児食、おやつサンプルを毎日展示し、毎月の献立と給食だよりによって園での食事と取り組みについて保護者に伝えている。</li> </ul>			
【A16】	A-1-(4)-②	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している	a
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本社作成の統一献立を使用し2週サイクルでの提供を行っている。献立には旬の食材が取り入れられており和食中心で子どもが食べやすい工夫がされている。同時に季節の初物については子ども達へ触れる機会や話をする機会を作り食育活動につなげている。行事食では園独自の工夫を凝らし、ハロウインのおぼけカレー、クリスマスツリーのおやつ、など子どもが楽しく食べることができるように取り組んでいる。毎月の誕生日会では、リクエストを取り入れるようにしており、カレー、唐揚げなど担任とも相談しながら決定している。</li> <li>・栄養士、調理師は子どもの給食、おやつの時間にクラスを巡回して子どもの喫食状況を確認したり、食材や献立について話たりしながら献立作成や調理に役立てるようにしている。乳児クラスでは離乳食の移行への配慮もあるため、子どもの状況を把握できるように努めている。毎月の給食会でも、残食状況などを把握し味付けや調理法など2週目の調理に活かせるようにしている。</li> </ul>			

#### A-2 子育て支援

##### A-2-(1) 家庭との緊密な連携

第三者評価結果

【A17】	A-2-(1)-①	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている	a
<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児クラスだけでなく幼児クラスでも連絡帳を使用し、保護者と子どもの様子を共有できるようにしている。乳児クラスは毎日記入し生活状況を詳細に共有し、幼児クラスでは必要に応じて記入してもらうようにしている。また、送迎時には必ず保護者に声をかけ、口頭においても確認するように努めている。</li> <li>・毎日の活動内容は活動表として幼児3クラス分を玄関に掲示し、活動によっては写真も掲示して保護者に見てもらえるようにしている。また、園だより、クラスだよりでは月の予定と目標、取り組みの様子などを伝え園での取り組みの様子を伝え保護者の理解が得られるように取り組んでいる。今年度はコロナ禍にあり保育参加は中止している。</li> </ul>			

**A-2-(2) 保護者等の支援**

【A18】	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている	a
<p>・毎日の送迎時の会話により子どもの様子を共有し保護者と信頼関係が築けるように努めている。相談にはいつでも応じる体制であり、相談内容に応じて主任、園長も対応にあたっている。また、専門的な内容については看護師や栄養士も相談に応じ、園全体で保護者の相談に応じる体制としている。</p> <p>・年2回懇談会と個人面談の機会を設け懇談会では保護者からの質問などにも応じているが、今年度はコロナ禍にあり懇談会は中止している。</p> <p>・相談内容は記録し、職員間で共有できるようにし、個人情報として管理している。</p>		
【A19】	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている	a
<p>・朝の受け入れでは、視診により子どもの様子を確認するとともに、いつもと違う様子など気になることがあれば保護者に確認している。毎日の着替えや身体測定時にケガやあざの有無も確認している。</p> <p>・内部研修を行い早期発見フォーマットを意識して対応できるように努め、体験談や事例を伝えることで虐待の理解を図れるように取り組んでいる。</p> <p>・重要事項説明書にも記載があるように、身近な虐待として育児ストレスがあることを保護者に説明し、育児の相談に乗ることが虐待防止のはじめの一歩であることを職員と共有、保護者とのコミュニケーションの大切さを理解し取り組んでいる。</p>		

**A-3 保育の質の向上**

**A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）**

第三者評価結果

【A20】	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている	a
<p>・本社より「にじいろの保育」という自己評価のフォーマットが提供されており、職員はそれに則り定期的に振り返りを行っている。</p> <p>・帳票類における自己評価では段取りや方法、意欲、改善点を踏まえ記入できるよう意識している。</p> <p>・年1回の自己評価における保育士からの気づき、職員からの反省や年間を通して実感したことの発信は、会議時や昼礼時に職員全体で共有し話し合い、より良い保育となるよう改善、工夫して取り組めるようにしている。</p> <p>・全体での振り返りにより、個々の意識付けと自信にもつながり、得意なことや不得手なことを共有することにより、協力し合えるなど職員同士の理解が深められていると感じている。</p>		